

令和3年度 社会福祉協議会内支援チーム会議 取組状況

日	内 容
4月30日	<u>社会福祉協議会内支援チーム会議</u> （以下、「社協内支援チーム会議」）の進め方の確認 地域ケアシステム検討委員会で検討していた多機関による協働支援の取組を一旦社協内で試 行し、社協以外の機関に広げられるように検討する
5月24日	対象者のイメージ共有（8050世帯、生活困窮等） ケース担当者にとって助言や、支援の役割分担ができれば有意義になる 社協内の各分野の相談機関からケースを出して事例検討をする
6月16日	<u>ケース検討</u> 70代認知症の母と、40代引きこもりの息子の世帯
7月27日	<u>ケース検討</u> 50代母と、20代娘の世帯
8月31日	<u>ケース検討を振り返り、検討課題の洗い出し</u> ケース検討では担当者の関わり方の協議が主になり、多機関協働の本来の機能（支援者支援、 役割分担など）で検討ができなかった
9月10日	<u>重層的支援体制整備事業における多機関協働についての共通理解</u> 多機関協働は、支援者支援、役割分担などが重要であるが、それよりも参加支援へつなぐこと が重要であることを共有した
9月29日	<u>社協内支援チーム会議の枠組みの検討</u> 社協内支援チームで検討する対象者の定義 ①窓口が定まっておらず支援担当者が不明なケース ②複数世帯で、それぞれの世帯員が課題を抱えており、複数の支援者が必要なケース ③参加支援につなぐ必要のあるケース
10月11日	<u>社協内支援チーム会議の枠組み、フローについて検討</u> 相談の入り口から、支援チーム会議までの流れを検討した
10月25日	<u>ケース検討</u> 生活困窮対応後、生活保護受給となった60代男性 就労意欲の低い40代男性
11月4日	<u>相談票、アセスメント項目についての検討</u> 多機関で協働するために、必要なアセスメント項目（地域・友人とのつながり等）の検討